

- 5 国内市場 岩谷産業、阪大と二つの共同事業開発 | 帝人、生活習慣病の重症化予防支援事業者と資本・業務提携
- 6 時事コラム アドバン理研、複数ユニット内蔵窒素PSAに新機種 | 三井・ケマーズ、PHC製品群に次世代低GWP冷媒を供給 | エア・ウォーター防災、現場作業員の昏倒を知らせる警報装置発売
- 7 事故 JXTG大分火災で西日本の炭酸ガス供給に影響懸念
- 24 短信 JEITA、新会長に石塚ソニー副会長
- 25 水素エネルギー JHyM、20年度水素ステーション整備計画策定 | ABB、外航船向けMW級FCシステム製造へ
- 25 DATA 2019年特殊材料ガス国内販売実績
- 25 最新工業ガス関連株式会社市況
- 26 ガスレビュー指標 機器編
- 28 流通回路 JIMGA、2020年定時総会開催 | 相互産業とバイタルエア・ジャパンが合併 | カグラペーパーテック、カグラエンジニアリングを吸収合併
- 29 決算 長野計器 | 三菱化工機 | 星医療酸器 | 大丸エナウィン | フクダ電子
- 31 組織人事 協栄興業、社長交代 | 大陽日酸 | 四国岩谷産業 | 関東電化工業

### 時事コラム

#### アドバン理研

複数ユニット内蔵窒素PSAに新機種 能力は65m<sup>3</sup>/h

アドバン理研(辻泰成社長)は、複数の吸脱着ユニットを内蔵することで省エネ・小型・低騒音に特長がある窒素PSA「LHPシリーズ」に、65m<sup>3</sup>/h・4Nを発生できる新機種を追加した。7月1日より注文を受け付ける。

同シリーズは第二種压力容器の適用外となる内容積40ℓ未満のアルミ製タンクをPSAの吸脱着ユニットに採用。このユニットを複数内蔵することで窒素ガスの発生能力を高めている。言い換えればミニPSA(ユニット)を複数台内蔵することで1台のPSAを構成する製品である。

小さなPSAユニットを複数内蔵することにより、きめ細やかな運転制御やユニット毎の吸脱着タイミングのコントロールが可能となり、省エネと低騒音を実現した。消音構造は特許出願済み。

また通常のPSAと比べると、ユニットの数は増えるものの、サイズが縮小されるため、配置を工夫することでコンパクト化を図っている。

同シリーズは今年3月に能力43m<sup>3</sup>/h・4Nを新発売(本誌932号既報)、これはユニットを2つ内蔵していたが、今回の新機種はユニットを1つ増やし、能力を65m<sup>3</sup>/h・4Nに高めた。新機種はパッケージサイズがW1536×D1140×H1790(mm)、重さが1.5t。サイズは同クラスの従来機に対して容積比40%減(高さは535mm減)を実現している。

省エネ・小型・低騒音以外の特長では、前面からのメンテナンス(推奨2万時間)が可能で、インターネット接続によりパソコンやスマホからの遠隔運転に対応する。また離れた場所に複数台を設置する場合はLANケーブルをつなぐことで、1台毎の単独運転や複数台同期運転など、総合的な省エネ運転制御が可能となる。



能力65m<sup>3</sup>/hのLHPシリーズ  
左は同クラスの従来機

標準価格(税抜)は標準パッケージ(LHP)が1270万円、機器組み込みタイプが(LHPK)1150万円、屋外パッケージ(LHPG)が1390万円。

なお、同社はLHPシリーズの拡販に向けて、6月に大口径NC旋盤を導入。内容積40ℓ未満のアルミ製タンクの量産を開始した。

辻社長は「第二種压力容器を使わない当社の新製品は新しいニーズがあることが分かってきた。人が作業するエリアでも使える汎用性の高い装置として普及させていきたい」とコメントした。